

那須から発信(発進)!

No.67
2019年1月

経営改善情報誌

とちぎの元気創出!



親園中学校にて(講師:古谷慶一さん)

表紙の説明

中学生への農業の魅力発信講話

那須地方農業振興協議会と那須農業振興事務所では、本年度から那須地域の中学生を対象に「農業の魅力発信講話」を行っています。那須地域において魅力的な農業を実践している農業者等が講話を行うことで、農業に対する理解促進と関心の醸成を図っています。

もくじ

- ◆ 那須地方で国際水準GAPの取組が拡大しています 2
- ◆ アスパラガス栽培を始めませんか? / 園芸総合相談所(愛称:みのりす)のご紹介 3
- ◆ 経営改善事例【那須町 有限会社 那須岡田牧場、大田原市 村田光喜・大地さん】 4
- ◆ 新農業士・女性農業士・名誉農業士紹介 6
- ◆ 鳥獣被害対策支援の紹介 / 那須地区認定農業者先進事例研修会結果 8
- ◆ 栃木県元気な農業コンクール受賞者紹介 9
- ◆ 各種表彰事業受賞者紹介 10
- ◆ 青少年・女性活動紹介
【那須野が原青少年クラブ、那須地区農村生活研究グループ】 11
- ◆ お知らせ 12

那須地方で国際水準GAPの取組が拡大しています

GAPとは、農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の持続可能性を確保するための生産工程管理の取組のことです。

那須地方では生産現場だけでなく、教育の場でもGAP認証取得に向けた取組が始まっています。

栃木県立那須拓陽高等学校では、なし栽培において、学校教育の一環でGAPに取り組み、那須農業振興事務所及び県経営技術課がその取組を支援してきました。平成30(2018)年11月6日、大山農場の果樹園にて国際水準のGAPである「GLOBAL G.A.P.」の認証を取得するため、公開審査が行われました。この公開審査には、審査機関の審査員や教員、生徒の他に、地域のJA職員等も含めた約40名が参加しました。審査員による栽培ほ場や調整施設などの現場及び書類確認により、農産物の安全や生産工程における環境保全などが確保できているか審査され、12月17日に認証されました。

また、那須農業振興事務所では生産現場におけるGAP取組支援も行っており、本年度は、那須塩原市の生産者が、国際水準GAPに取り組むための技術支援を実施しています。サンプル農場評価、組織・施設評価、リスク評価などの演習を通じてGAPに対する理解を深めてもらい、より良い農業の実践を目指しています。

このほか、複数生産者でJGAPや第三者確認に向けた動きがあります。



参加者



栽培ほ場審査



調整施設審査



書類審査

グローバル GAP 認証取得審査の様子

アスパラガス栽培を始めませんか?

那須地方は、県内一のアスパラガスの産地です。品質も高く、市場価格も比較的安定しており、計画的な栽培によって安定した収入が期待できます。

特にJAなすのアスパラ部会では、新規栽培者への支援が充実しており安心して栽培に取り組むことができることから、毎年のように新規栽培者が増加しています。

〈栽培の特徴〉

定植後1年目は株養成中心の管理となります。収量が安定するのは概ね3年目以降です。初期生育が良好な場合は、1年目の秋から収穫することも可能です。アスパラガスは一度定植すると10年以上継続して栽培・収穫することができるため、栽培条件の良いほ場を選び、定植前のほ場準備は定植前年から早めを始め、作付け前に10年分の土づくりを十分に行うことが重要です。



収穫直前のアスパラガス

作型図

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
栽培前年	ほ場の選定 土質・作土深の確認								堆肥投入 土作り	ハウス 建設		
1年目	ハウス建設 支柱・ネット設置 雨よけ		元肥施肥		△定植				(収穫)	黄化処理 地上部 刈取		
2年目	支柱・ネット設置		保温	立茎*	収穫			黄化処理 地上部 刈取				
3年目以降	支柱・ネット設置		保温	立茎*	収穫			黄化処理 地上部 刈取				

収量・経費など(10aあたり)

	3年目以降
反収	1.6t
単価	1,000円
販売額	160万円
経営費	71万円
所得率	約56%
所得	89万円
労働時間	約600時間

※単価はkg当り

園芸総合相談所(愛称:みのりす)のご紹介

平成30(2018)年7月12日、「園芸大国とちぎ」の実現に向け、那須農業振興事務所経営普及部に園芸に関するトータル的なサポートを行うワンストップの相談窓口「園芸総合相談所」(愛称「みのりす」)を設置しました。

【具体的な相談例】

- 新たに園芸を導入したい。
- 産地化や産地拡大に取り組みたい。
- 流通・販売対策に取り組みたい。

【問い合わせ先】

那須農業振興事務所経営普及部 (TEL:0287-22-2826)



みのりす

お気軽に御相談ください!

経営改善事例紹介

地域ぐるみ体制による資源循環型農業の持続的発展を目指して

那須町豊原乙 有限会社 那須岡田牧場

岡田篤史さんは(有)那須岡田牧場の3代目として、代表の岡田建史さんと親子で酪農経営を行っています。栃木県最北の地で福島県境の山並を背に、経産牛340頭、育成牛270頭(外部預託を含む)を飼養、自給飼料としてデントコーンを作付しています。

また、コントラクター組織である株式会社「那須の農」と連携して、稲WCSやデントコーンサイレージの作業受託にも取り組んでいます。

(有)那須岡田牧場では、生乳生産量、自給飼料面積、稲WCS利用量の拡大を目標として、夕狩地区耕畜連携協議会を組織し畜産クラスター事業を活用、平成29(2017)年度に120頭規模の牛舎と堆肥発酵舎、攪拌ロータリー、酪農設備(ミルカー、換気扇等)を整備導入しました。現在は、施設の規模に合わせた乳牛増頭のため制度資金を活用して導入手続きを進めているところです。

また、篤史さんを含めて(有)那須岡田牧場の役員や職員の多くが、国際農友会(現在は国際農業者交流協会)を通じて国際的な視野や経営感覚を習得するための海外長期研修へ参加しており、常に情報収集を行って最新技術を積極的に導入するなど、前向きな経営改善に取り組んでいます。

今後は、規模拡大と並行して一頭あたりの乳量や乳質の改善、発情や疾病の早期発見による効率的な飼養管理等に取り組み、経営の安定化を図るとともに、将来的には高校生の息子さんが4代目として就農してくれるような夢のある農業経営の実現を目指しています。



岡田篤史さん



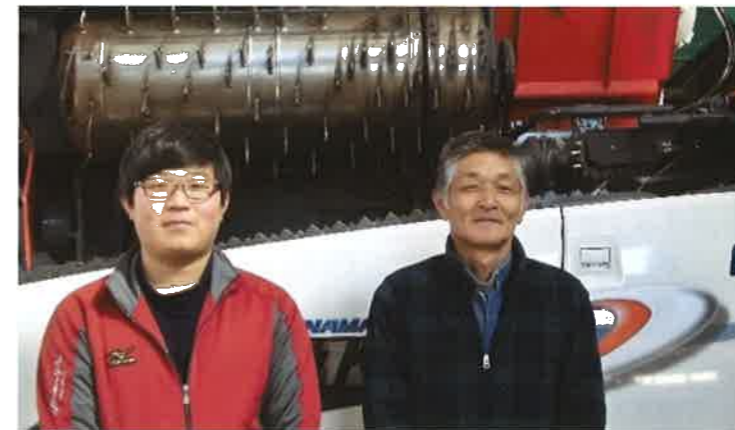
食品加工副産物(エコフィード)を混合したTMR



堆肥発酵舎

園芸作物導入による経営発展を目指して

大田原市上石上 村田 光喜・大地さん



村田大地さん(左)・光喜さん(右)

村田光喜さんは平成29年に就農した後継者の大地さんと共に、水稻、二条大麦、大豆、山うど、加工用たまねぎを組み合わせた複合経営をしています。

光喜さんと妻の政江さんが育苗や経営管理を行い、大地さんが機械作業全般(田植え、稲刈り等)を担当しています。

もともとは和牛繁殖をしていましたが、近隣周辺の農業者からの農地委託要請に対応するため、平

成13年に水稻を中心とした経営となりました。

その後、冬場の収入を確保するため山うどを導入し、さらに、平成30年からは加工用たまねぎの作付けを開始しました。加工用たまねぎは、は種から収穫まで機械化一貫体系で作業が行え、機械はリースで利用でき初期投資が少ないことが魅力であり、大地さんの就農を契機に新たな品目の導入にチャレンジしました。

また、水稻栽培においても、平成30年に導入した食味・収量測定機能搭載のコンバインを活用し、ほ場ごとの栽培管理により収量・品質の向上と省力化を図り、さらなる経営改善につなげていきたいと考えています。



伏せ込みを行った山うど



食味・収量測定機能搭載のコンバイン

新農業士・女性農業士・名誉農業士紹介

平成31(2019)年1月9日に栃木県公館で平成30年度栃木県農業士・女性農業士・名誉農業士の認定式が挙行されました。那須地方では農業士4名と女性農業士1名が認定され、また、永年の農業士活動に尽力された4名が名誉農業士に認定されましたので御紹介します。今後の那須地方の農業振興、地域振興、青年農業者の育成等の御活躍を期待いたします。なお、那須地方の認定者は、農業士28名、女性農業士12名となりました。

● 新名誉農業士 ●



八木沢 操氏(大田原市実取)

酪農、水稲、麦を組み合わせた複合経営を行っています。
平成9年に農業士認定を受け、那須地方農業者懇談会長や大田原地域青色申告会において指導者的役割を務めるなど21年にわたり、地域農業の振興、青年農業者の育成に尽力されました。

今 耕一氏(那須町高久甲)

酪農と乳製品加工を組み合わせた経営を行っています。
平成11年に農業士認定を受け、那須地方農業士会長、那須町農業委員長などの要職を歴任し、19年にわたり、地域農業の振興、青年農業者の育成に尽力されました。



藤本 建一氏(大田原市蛭田)

施設トマト、水稲を組み合わせた複合経営を行っています。
平成12年に農業士認定を受け、那須地方農業士会会長などの要職を歴任し、18年にわたり、地域の園芸振興、青年農業者の育成に尽力されました。

松本 照子氏(大田原市桜木沢)

水稲、なすを組み合わせた複合経営を行っています。
平成12年に女性農業士認定を受け、那須地方農業者懇談会長や那須地方農村女性会議会長を務めるなど、18年にわたり、男女共同参画の推進、地域農業の推進に尽力されました。



● 新農業士及び新女性農業士 ●



高瀬 隆至氏(大田原市佐久山)

水稲栽培を中心に低コスト化と高品質化を両立した大規模土地利用型農業経営を行っています。省力化技術の積極的導入により各種作業の効率化を実現しています。また、地域からの水稲作業や無人ヘリによる病害虫防除作業の受託により農地保全に貢献しています。

松本 良則氏(那須塩原市宇都野)

酪農を主体とした経営であり、優良子牛の導入や暑熱対策等の飼養管理技術の向上により、乳質の向上を図っているほか、飼料作物の二毛作による農地の高度利用や大型農業機械の共同利用等、低コスト化による安定した酪農経営を行っています。



平山 貴典氏(那須町高久甲)

露地ねぎを経営の中心とし、水稲及び麦を組み合わせた土地利用型複合経営を展開しています。省力化技術や機械の導入により作業の効率化を図るなど各部門の労力の競合を抑えています。また、地域内の作業受託による農地保全やカバークローブ導入による環境に配慮した農業を実践しています。



高久 淳平氏(那須町漆塚)

和牛繁殖中心の経営で併せて農作業受託を行っています。稲WC Sの作付拡大により粗飼料自給率の向上を図るなど生産コスト低減を図っています。また、哺乳ロボットや水稲直播専用機の導入など、新技術を積極的に取り入れるなど地域の先進的モデルとなっています。



大島 章子氏(那須塩原市宇都野)

兼業である夫とともに酪農経営に携わり、主な農作業や飼養管理を担っています。食生活を始め、家庭生活全般に気を配るとともに、地域や組織活動にも積極的に参加するなど、笑顔の絶えない楽しく明るい家庭生活に努めています。



鳥獣被害対策支援の紹介

県内の野生鳥獣による農林水産業被害は、被害面積・額とも高い水準で推移しており、近年は市街地への出没、車両との衝突事故も発生しています。このため、県では、野生鳥獣による農林水産業、生態系及び人身事故等への被害対策を全庁挙げて推進するため、平成30(2018)年5月22日に知事を本部長とする「栃木県鳥獣被害対策本部」を設置しました。これを受け、那須・塩谷南那須地域においても市町や関係団体等からなる、「県北地域鳥獣被害対策連絡会議」を設置しました。7月18日と12月14日に会議を開催して、鳥獣被害情報の共有や連絡体制を強化することとしました。

経営普及部においては、農業被害防止対策支援のため、那須塩原市寺子東部地区で実施されている、とちぎ獣害対策アドバイザー派遣事業と連携して、住民学習会や集落点検等の支援を行っているほか、JANAすのいちご部会員を対象として、10月5日にハクビシン対策技術講習を開催しました。

冬期は、野生鳥獣にとって餌が少なくなり生存に厳しい環境になります。しかし、未収穫の作物や作物残渣を放置すると餌を与えることになり、翌年の繁殖に繋がってしまいますので注意してください。

また、野生鳥獣の生息域(自然領域)と耕作地(人間領域)の間となる緩衝地帯を維持するため、冬期に集落周辺の環境整備を実施しましょう。



とちぎ鳥獣対策アドバイザー派遣事業住民学習会



第2回県北地域鳥獣被害対策連絡会議

那須地区認定農業者協議会先進事例研修会結果

那須地区認定農業者協議会では、平成30(2018)年7月13日、福島県猪苗代町の鳥獣被害防止対策について先進事例研修会を行いました。

福島県猪苗代町では、平成22年から鳥獣被害対策専門職員が担当現場の見回りや講習会の講師、被害対策の立案、集落住民への指導等を担当しています。また、ニホンザルやツキノワグマなどの加害獣を監視し、群れの位置情報や出没、被害状況等の情報をメールマガジンで提供する取組を行っています。

現地見学では、集落ぐるみの被害防止対策の取組により加害獣の出没が減少した集落の対策組織代表者から話を伺いました。参加者からは、効果的な電気柵の張り方や使用している資材等について活発な質問がなされました。



猪苗代町の説明



現地見学



対策組織代表者の説明

栃木県元気な農業コンクール(いきいき農村部門)受賞者紹介

【特別賞(栃木県農業協同組合中央会長賞)農村活性化の部】 八溝あづまっぺ協議会(大田原市)

大田原市須賀川地区の地域資源を生かし、地域活性化の取組を行っています。これまで、企業や大学生の協力も得ながら荒廃していた茶畑を再生し、その茶葉を使用した紅茶「雲巖の静謐」の製品化を行いました。その他にも農業体験の受け入れ、地域の見どころを記載した花暦の制作・配布、雲巖寺での「薪能」の主催など、活動の幅は多岐に渡ります。



【優良賞(栃木県農政部長賞)女性・高齢者活動の部】 那須塩原市農村生活研究グループ協議会(那須塩原市)

食育・地産地消の推進、男女共同参画の推進、地域活性化のための活動を行っています。特に力を入れている食育活動では、小学校でのおにぎり・バター作り体験講座、食育紙芝居等の取組を行っています。地産地消の取組としては、公民館での地元農産物を活用した料理教室の講師や、毎年テーマに基づいたレシピを開発してパンフレットにまとめています。

多くのグループ員が組織活動で培った技術や知識を生かし、幅広い分野において活躍しています。



【特別賞(下野新聞社長賞)農村環境保全向上の部】 稲沢農地環境保全組合(那須町)

多種多様な生き物が生息する水辺環境の保全活動を推進しています。座禅草の保護活動として、草刈りや清掃活動の他、看板や木道の設置を行いました。地元の保育園や小学校へも呼びかけ、地域一体の活動として連帯性を強めています。また、構成員が育てた巨大かぼちゃを展示し、大きさを競うかぼちゃ祭の実施、田植え・稲刈り体験の受け入れなど農業にふれあうイベントを実施しています。



【優良賞(栃木県農政部長賞)農村環境保全向上の部】 寒井本郷環境保全組合(大田原市)

生産農家・自治会・非農家・地域育成会を構成員とした地域ぐるみの活動を展開しています。

20年以上耕作放棄されていた農地を再生し、そばの種まき体験、そば打ち体験を行っています。

また、地域内にあるホタルの生息地では、毎年生き物調査を行い、環境整備と保全管理に取り組んでいます。

そばの種まき体験、そば打ち体験、生き物調査は地域育成会の年間行事としても組み込まれており、子供たちへ地域資源について伝えています。



各種表彰事業受賞者紹介

各種枝肉共励会で上位入賞

東京都中央卸売市場食肉市場において、平成30(2018)年10月10日に第1回とちぎ和牛枝肉共励会・第2回JAグループ栃木交雑種枝肉共励会(出品頭数90頭 主催:全国農業協同組合連合会栃木県本部、(一社)とちぎ農産物マーケティング協会)、平成30(2018)年10月26日に全国肉用牛枝肉共励会(出品頭数500頭 主催:(一社)東京食肉市場協会)が開催されました。

那須管内からも多くの牛が出品され、その中でとちぎ和牛枝肉共励会最優秀賞に手塚平さん、全国肉用牛枝肉共励会優秀賞に木下智昭さんが表彰されました。

今後とも高品質な和牛を生産することで、その品質がより広く認められるとともに、更なる産地の発展が期待されます。



手塚 平さん
(第1回とちぎ和牛枝肉共励会 最優秀賞)



木下 智昭さん
(全国肉用牛枝肉共励会 優秀賞1席)

栃木県ホルスタイン共進会で活躍

平成30(2018)年10月13日に畜産酪農研究センターにおいて、第28回栃木県ホルスタイン共進会(主催:栃木県酪農協会)が開催されました。

県内各地から未経産・経産合わせ多数の優秀なホルスタイン種が出品され、その中から当管内の那須拓陽高等学校(未経産1~4部)及び高塩浩典さん(経産5~7部)が名誉賞を受賞しました。

高等学校及び地域の若手後継者が受賞したということもあり、今後、管内酪農業のますますの発展が期待されます。



那須拓陽高等学校の出品牛



高塩 浩典さんの出品牛

栃木県優良担い手表彰事業 優良認定農業者(個人):優良賞(栃木県担い手育成総合支援協議会長賞) 池田伝さん(那須塩原市)

池田伝さんは那須塩原市戸田で、酪農経営を中心に良質な粗飼料生産を担保するために農地中間管理事業と畜産担い手育成総合整備事業で草地造成を行い、規模拡大を図っています。

経営においては、後継者が主体となり、家族従事者がゆとりと生きがいを持って業務に専念できるような環境づくりに努めています。また、環境への意識を高く持ち、適切な糞尿処理と堆肥の有効活用に努め、優れた循環型酪農経営を実践しています。



池田 伝さん

栃木県土地利用型園芸コンクール大賞 村上勝則さん(大田原市)

露地ねぎの大型機械化一貫体系や農地集積による作業の効率化、周年出荷の実践など、水田を活用した土地利用型大規模経営への取組が高く評価され、第1回栃木県土地利用型園芸コンクールにおいて大賞を受賞されました。平成30(2018)年10月22日の表彰式では、経営の変遷や大規模経営化への契機などについて事例発表を行いました。



村上 勝則さん

青少年・女性活動紹介

平成30(2018)年度の地区4HC実績意見発表会が盛大に開催!

12月4日、那須塩原市いきいきふれあいセンターで、地域の青年農業者が一堂に会し、農業経営改善のために取り組んできた活動成果やクラブ組織活動の状況、また日頃考えている意見を発表する実績意見発表会が開催されました。今年度は57名が参加し、プロジェクト発表の部が3点、意見発表の部が3点、クラブ活動発表の部が3点の計9点の発表が行われました。また、那須拓陽高校生と青年農業者が12名程度の少人数グループ3班に分かれて意見交換会を行い、農業を始めるきっかけや経歴等、就農に関する質疑応答を身近な先輩として示してもらいました。

なお、平成31(2019)年1月25日に開催される栃木県農業青年研究大会へ地区代表として以下の4点が発表する予定です。

大変おめでとうございます。

【発表内容】

○プロジェクト発表の部

櫻岡 高広さん(施設野菜部門)

大島 新平さん(畜産部門)

○クラブ発表の部

俵藤 達也さん(那須町4HC)

○意見発表の部

佐藤 友美子さん(那須塩原市4HC)

那須地区農村生活研究グループ活動の紹介

那須地区農村生活研究グループ協議会では、毎年、食と農の交流会、活動交換会等を通し、会員の資質向上や消費者との交流を進めています。

平成30(2018)年9月5日に行った食と農の交流会では、消費者とグループ員合わせて31名が、飾り巻き寿司(かたつむり、バラ)、夏野菜のスープ(三五八入り)、なすの肉詰めフライ、アスパラメンチ、かぼちゃプリンを調理し、試食しました。

また、12月6日には、活動交換会を実施し、各協議会が行っている料理教室や小学校などにおける食育の取組、イベントでの地元農産物や郷土食PR等についての発表がありました。その後、昼食交流会にて各協議会で研究を行ったメニューを調理、試食しながら活発な意見交換が行われました。



クラブ員の発表



意見交換会



食と農の交流会 調理



食と農の交流会メニューの一部



活動交換会 活動発表

お知らせ

◆ 那須地区認定農業者協議会定期総会、セミナーの開催について ◆

那須地区認定農業者協議会では、毎年3月に定期総会を開催しています。
平成30年度の定期総会の開催にあたり、各市町認定農業者組織の代議員の出席をお願いいたします。

◆ 農業経営改善セミナーの開催 ◆

認定農業者の経営改善・発展に資するため、定期総会と同日にセミナーを開催します。
今年度の内容については詳細が決定次第再度お知らせいたします。

◆ 平成31年度とちぎ農業ビジネススクールの御案内 ◆

～是非、本人や御家族、従業員が受講して具体的な経営改革に取り組みませんか?～

- 募集期間：平成31(2019)年2月12日(火)～5月10日(金)
- 開催期間：2019年6月18日(火)～2020年3月3日(火) (講座開催18回)
- 募集対象：経営の高度化を目指す本県在住の農業者
(農業従事経験が概ね3年以上45歳程度まで)
- 募集定員：20名
- 受講料：30,000円
- 内容(平成30年度参考)：
経営者マインドセミナー(農業経営実践者の講義及び討論による意識改革)
経営スキルセミナー(マーケティングや会計・財務管理等の経営スキル習得)
経営改革プランニング(中小企業診断士等の専門家からアドバイスを受けながら作成)
- 問合せ先：栃木県農業大学校 宇都宮市上籠谷町1145-1 (TEL028-667-4944)



編集発行 栃木県那須農業振興事務所 平成31(2019)年1月

〒324-0041 栃木県大田原市本町2-2828-4

☎0287-22-2826 FAX 0287-23-4961

事務所ホームページ <http://www.pref.tochigi.lg.jp/g56/index.html>

